令和８年度 第１回滝沢市環境審議会 会議録

開催日時	令和８年７月３０日（木）１０時から１２時まで			
開催場所	滝沢市役所　２階　大会議室			
環境審議会委員	職名	氏名	出席	欠席
	会長	辻　盛生	出席	
	副会長	中村　文雄	出席	
	委員	高橋　功		欠席
	委員	畠山　博憲	出席	
	委員	民部田　健一	出席	
	委員	渡邊　美香子	出席	
	委員	髙橋　弘美	出席	
	委員	豊島　正幸	出席	
	滝沢市環境審議会規則第４条第２項の規定に基づき会議成立	８人	７人	１人
滝沢市及び事務局	市民環境部 市民環境部環境課	部長　高橋　克周 課長　藤澤　義美 総括主査　古前田　公湖 主任主査　畑中　宏一		
傍聴者の有無	無し			
次第	１　開会 （参加者自己紹介） ２　挨拶（市長、会長） ３　議事 会議録署名人は、民部田委員、中村委員指名。 【第１号議案】令和７年度環境年次報告書（案）について ４　その他 ５　閉会			
会議資料	（１）次第 （２）滝沢市環境審議会委員名簿 （３）滝沢市環境審議会委員について （４）令和７年度滝沢市環境年次報告書 （５）木賊川上流及び巣子川上流における「大腸菌数」の非常に高い数値について （６）河川工事事業地内に創出した暫定的な「希少野生動植物保全区」に関する適切な維持管理方法とそれに要する各種労力の解明			

会議記録の方法	要点記録
質疑応答（要点記録）	
（１）ストックヤードの周知について	
委員	環境年次報告書４５、４６ページの「資源循環に配慮したごみ処理の推進」について、若い職員や年配の職員から、ストックヤードの設置場所、設置基準や使用基準が分かりにくいと話がありました。 市ホームページやゴミカレンダーを確認したが見つけられません。 市民が必要な情報にたどり着けるような周知が必要ではないでしょうか。
委員	各自治会では、設置時に回覧版などで周知しています。 また、分からない時は自治会長や自治会役員に問い合わせて頂ければ良いと思います。
委員	自治会役員は「知っているはず」という前提だと情報が届かないので、自治会でも継続的な周知が必要だと思います。
事務局員	ストックヤードについては、滝沢・雫石環境組合が所管しているため、市ホームページでは見つけにくい状況と思われます。 ストックヤードの設置に関する補助制度について、環境組合ホームページに掲載されております。 市としても環境組合と、連携を取りながら組合ホームページへの誘導や情報発信方法の改善を検討したいと思います。
議長	市民は、市のホームページ上に情報があると考えるため、誘導がうまくできるようなホームページの構成を、工夫して頂くと良いです。
（２）クーリングシェルターの指定拡大について	
委員	環境年次報告書２７ページのクーリングシェルターについて、行政が個別に依頼するのは、公平性や事務負担の面で難しいと考えています。 滝沢市商工会、ＪＡや女性団体など各団体のネットワークを活用し、公募方式で参加施設を募ってはどうですか。 民間の力を借りれば、スーパーやドラッグストア等の拠点を増やせる可能性があると思います。
事務局員	クーリングシェルターには、設置条件が国から示されております。 昨年度、市内の全スーパーに働きかけを行い、協力頂けるところを指定しました。 市からの働きかけだけでなく、企業からの申出による指定も可能であるので、希望する施設があれば、随時相談して頂ければと思います。
（３）河川における大腸菌数について	
委員	環境年次報告書６１～６２ページの大腸菌数についてです。 また、「木賊川上流および巣子川上流における大腸菌数の非常に高い値について」という資料をご覧ください。

	２００１年度から２０２１年度の調査結果で、夏期は環境基準超過率が極めて高いです。 上流部で高い数値を示し、下流に向かうにつれて低下してきています。 大腸菌数が高い原因は、家畜ふん尿を散布した畑地土壌の河川への流出が要因であると考えられます。 冬期に、大腸菌数の値が低下する要因として、土壌凍結による流失抑制の可能性があります。 要因解明のためには、継続的な調査が必要であると考えます。
事務局員	事務局も、同様の問題意識をもっております。 今まで年２回の調査を、昨年度より２回追加実施し、今年度は年４回に増やしており、データを蓄積し傾向を把握していきたいと思います。
議長	今後、専門家も交えて、検討を進めることが必要と思います。 また、下水道供用区域外であることから、浄化槽の不具合などの影響も考えられます。 測定地点や測定回数を増やし現状を把握することも必要ですが、原因特定と対策の検討も必要と思います。
（４）集団資源回収について	
委員	地域婦人協議会では、集団資源回収を継続的に実施しています。 資源回収はごみ減量だけでなく、地域コミュニティの形成にも寄与しており、高齢者支援や世代間交流の場にもなっています。 今後も継続的な支援をお願いします。
事務局員	集団資源回収量、登録団体数、実施回数が減少傾向にあります。 少子高齢化や担い手不足、共働き世帯の増加などの要因が考えられます。 地域コミュニティ維持の観点からも継続的に取組を支援していきたいと考えております。
議長	ごみ減量以外にも交流の場としての面もあるという大事な意見でした。
（５）太陽光発電導入目標について	
議長	環境年次報告書５ページについて、環境基本計画に掲げる２０３０年度までの目標値（再生可能エネルギー６８，０００ｋｗの導入）について、公共施設だけでは達成できない規模と思われます。 数値の算出方法や進捗状況を教えて頂きたい。
事務局員	公共施設だけでなく、住宅や事業所等市内全体の導入目標です。 国及び県の環境基本計画を踏まえて、目標を設定しております。 進捗状況は数年のタイムラグがあるので、中間年度で考えてみたいと思います。
（６）たきざわ環境パートナー会議について	
議長	生物多様性保全などで大きな役割を果たしているたきざわ環境パートナー会議について、活動実績に対して市の位置付けや支援が十分見えません。 今後の継続・発展のため支援の在り方を検討すべきではないかと思いま

	す。
事務局員	現在はボランティア活動として位置付けています。 活動に応じて、草刈等燃料など消耗品の支援は行っていますが、補助金等を支出しておりません。
委員	木賊川遊水地整備完了後の管理体制が、大きな課題と考えています。 生物多様性保全活動の成果が将来的に活かされる仕組みづくりが必要です。 長期的視点で人材育成や管理体制を検討すべきと思います。
（７）自然共生サイトについて	
議長	岩手県立大学にある調整池（ビオトープ）が自然共生サイトの認定を受けたことで、市として今後どのような展開を考えていますか。
事務局員	認定されたことの周知に努めていきます。また、環境年次報告書への掲載など、情報発信に努めていきたいと思います。
議長	県立大学の調整池だけでなく、市としても自然共生サイトを広げる取り組みが必要と思うのですが市としてはどう考えていますか。
事務局員	市としては、木賊川遊水地の活動も含め、こういった環境への取り組みを継続的に情報発信していきたいと思います。
（８）河川整備と生物多様性保全について	
議長	環境年次報告書の２５ページ河川改修について、河川改修は治水だけでなく環境配慮の視点も重要だと思います。
事務局員	河川公園課と連携し、カワシンジュガイ等の生物の移植についての取組も環境年次報告書へ記載できるか検討します。
（９）環境情報の発信について	
委員	市の取組や各種団体の活動が、ＳＮＳなどの活用により見える化されてきました。 環境パートナー会議や環境活動の情報発信を、更に進めて欲しいと思います。 例えば、サイクルツーリズム等の観光施策と環境保全を連携して発信できる可能性も有るかと思います。
議長	多様な情報媒体を活用した情報発信が重要となってきているので、若い世代にも届く仕組みづくりを検討して欲しいとのことです。